

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集 「明日にむかって」編集委員会 発行日 2015年3月16日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)

76号

自転車で走っていると、似たような毛色の猫が3匹、連れだつてびよんびよん駐車場に入っていくのが見えました。ちょっとついていってみると、先頭の1匹の後を、ずーっと一緒にくっついて走り回っています。兄弟が親子なのでしょう！猫の目線で見ながら、心地よい時間を取り戻しました。子どもたちの社会も、親や兄弟、周囲の大人に守られることで明日への希望が広がって、子どもは前へ前へと突き進んでいくことができます。中学1年生の子どもの痛ましい事件、なんて教えなかったのかと、やりきれない思いがつのります。子どもとかわかり、育ちの環境を考える私たち大人に投げかけられた課題の重さを感じます。(H・T)

いよいよ実施される 子ども・子育て支援新制度

―板橋区議会文教児童委員を傍聴して―

新制度における 保育料

「子ども・子育て支援新制度」がこの4月から実施されます。保育園を利用したい保護者は「保育認定」を受けたうえで、多様な保育施設・事業の中から自由に選択できるようなことがうたわれていたはずなのに、板橋区では4月からまたたくさんの待機児童が増えることが予想されます。そうした中、2月19日の板橋区議会文教児童委員会で新制度に関連する重要な条例(案)が審議されました。

その一つは、保育料の問題です。保護者からの保育料は、国の保育料設定では高すぎるため、多くの自治体で軽減措置を図っています。今回審議された「板橋区保育費用徴収条例の一部を改正する条例」では、保育所・認定こども園・居宅型保育事業、小規模保育、家庭的保育事業、事業所内保育の保育料が定められました。

新制度に入る施設・事業の保育料は、国が「応能負担」(所得に応じた負担)と定めたため、小規模保育や家庭的保育事業もこれまでの一律の保育料から、保育所と同じように応能負担となり、「値上げ」となる世帯が出てきます。特に板橋の「家庭福祉員」は、これまでの一律1万7千円から最大5万7千円となる家庭も生じます。

板橋区は「保育所保育料は変更しない」としていましたが、保育料の算定が所得税ベースから住民税ベースに変わることによる影響が出ます。保育料変化なしの世帯40%、値上げ30%、値下げ30%であり、2年間は値上げ世帯への経過措置があります。その後最大6段階分もアップする世帯が出る可能性があります。保育料の多子軽減策も改善されることなく、「今後検討」となりました。

また、「保育短時間」(1日8時間までの保育料は「標準時間」(1日11時間までの)の98・3%に設定されています。勤務時間帯等から、保育施設が設定する「利用可能な8時間」を超えることが常態である場合は、保育標準時間としての認定が可能となりますが、保育短時間認定のままで「延長保育」となると、延長保育料が発生し、場

合によっては「標準時間」の認定を求めないと、かえって高い保育料となってしまうので、注意が必要です。

新制度と あいキッズ

新制度に関わって、板橋のあいキッズについて、重要な二つの条例が審議可決されました。①「東京都板橋区放課後児童健全育成事業の設備および運営に関する基準を定める条例」と②「東京都板橋区あいキッズ条例の一部を改正する条例」の二つです。

国の放課後児童健全育成事業が子ども・子育て支援新制度の中に位置付けられ、板橋区の「あいキッズ」や民間の児童クラブがこれに適合したものであるかが問われています。

①の条例では、「対象は小学校6年生まで」「遊び及び生活の場としての機能並びに静養するための機能を備えた区画(専用区画)」「一つの支援の単位を構成する児童数はおおむね40人以下」「一つの支援の単位ごと職員数は2名以上」「小学校休業日は1日8時間以上、授業のある日は3時間以上開所」「年間250日以上開所」「あいキッズは土曜日開所していないため250日に達しないことから、付則で「当分の間

240日以上」の基準が定められました。②のあいキッズ条例の一部改正が、①の条例に従ったものであればよいのですが、文教児童委員会の審議の中では不明な点が残りました。

板橋区は、あいキッズ「さらさらタイム」の児童のみを「放課後児童健全育成事業」の対象としています。さらさらタイムにも昼間留守家庭の児童がいます。さらさらタイムは17時から22時であり、国基準の3時間以上には達しませんが、板橋区は授業終了後からをカウントするとしています。「専用区画」をどのように考えるのかも大きな問題です。板橋区はあいキッズの「3拠点」のうちの「静的拠点」を「専用区画」と考えているようです。職員配置や「支援単位の児童数は40人以下」の点についても明らかにしていません。国の基準に合致すれば、国の補助金が支給されますが、果たしてどうなのか。

「子ども・子育て支援新制度」自体完璧な制度ではなく、ましてや板橋区はあいキッズ制度は大きな問題をばらんでいます。「すべての子どもたちに平等な保育」をめざし、国や自治体の動きをしっかりキャッチして、少しでもよい制度になるよう、力を合わせて働きかけていきたいと思います。
(社会福祉法人陽光会理事 矢部ふみ子)



一時保育

◆こんなときご利用ください
・保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など
・また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時
・保護者の子育て不安・リフレシユなど
◆利用日・利用時間など
・月曜日～金曜日の9時～17時(土・日・祝日・年末年始休)
・1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」ご利用の方は生後10か月から。
・一日1時間～8時間。ご希望の時間帯で利用できます。
◆お申し込み・お問合せ
直接 陽光保育園へ。
(☎03-3956-1068、受付時間10時～17時)
・緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
・事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます(親子でおいでください)。
・利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。

「子ども・子育て支援新制度」自体完璧な制度ではなく、ましてや板橋区はあいキッズ制度は大きな問題をばらんでいます。「すべての子どもたちに平等な保育」をめざし、国や自治体の動きをしっかりキャッチして、少しでもよい制度になるよう、力を合わせて働きかけていきたいと思います。
(社会福祉法人陽光会理事 矢部ふみ子)

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2015年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068
時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者

*参加ご希望の方は実施予定日の3日前までに電話ください。
*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
*お天気により内容を変更する場合があります。
*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

| 2015年度◆年間予定 | | |
|-------------|-----------|----------|
| 4月21日(火) | 5月26日(火) | 6月23日(火) |
| 7月14日(火) | 8月11日(火) | 9月15日(火) |
| 10月28日(水) | 11月24日(火) | 12月8日(火) |
| 1月13日(水) | 2月16日(火) | 3月1日(火) |

* 9月:看護師が「健康」について相談を受けます。
* 11月:栄養士が「食」について相談を受けます。



鬼はそこー! 福はうちー!

北町保育園 ●節分集会●

各クラスで作った鬼を披露しあい、年長さんが糺で編んだものにイワシと柁をくくりつけ、「これで鬼が来ても平気だね」と皆で確認しました。いよいよ鬼が登場すると騒然とした空気に。乳児のなかには怖がって泣きだした子もいました。「鬼はそこー」と豆を投げつけました。5歳児クラスの担任が鬼に連れ去られるハプニングがあり、子どもたちは泣きながらも鬼に立ち向かって豆を投げつけ、逞しさを感ぜられる場面でした。無事、担任が戻って来ると、皆で喜び合いました。

陽光保育園 ●年長児、卒園にむけて●

年長クラスは今、卒園にむけて荒馬作り、水彩画、リズム、コマ回しに取り組んでいます。年長組の1年間で、仲間と「頑張る」楽しさをたくさん味わってきた子どもたち。苦手なこともあるけれど、友達がそばで応援してくれたり、教えてくれたり、手伝ってくれたら、少しくらいのことも乗り越えてきました。だから卒園にむけてますます仲間と頑張ることが楽しくてしょうがないようです。「Hちゃんの絵がすくすく素敵なんだよ」「わたしはコマが上手になったよ。Wくんが教えてくれたの」と教えるきてくれる子どもたち。仲間を認めてあげられるようになったところにも子どもたちの成長が感じられます。

●けん玉検定と工作フェス●

「一般登録」では10月に、今年度第1回目のけん玉検定を行いました。コツコツと練習に励む子、普段けん玉をやらない子まで興味を持って参加し、多くの子どもが取り組むイベントとなりました。今回は、「あいキッズけん玉協会」より賞状を用意! 賞状を見て誇らしげな子どもたちでした。

「学童登録」では2月に工作フェスティバルを開催しました。陽光保育園の年長クラスもお客さんとして参加し、大盛況のうちに幕を閉じました!

●ごあんない●

■陽光会後援会・春の交流会

日時 4月26日(日) 11時～14時
講師 板橋区立平和公園
講師 大人1人500円
(子ども・新会員は無料)

*新会員の歓迎もかねた交流会です。焼肉、焼きそばなどをつくりたい。皿、箸、コップ、おにぎりなどをお持ちください。

■陽光会後援会総会

日時 5月22日(金) 19時～21時
会場 陽光保育園ホール

■陽光保育園・夏のバザー

日時 7月5日(日) 10時～14時
会場 陽光保育園

1月16日/陽光保育園ホール

子ども同士のつながりを通して

◆子育ての中で大切にしたいこと

講師 西川由紀子先生

1月16日、陽光保育園で開かれた「共育講座」には80名もの参加者があり、ホールが満員になるほどでした。講師の西川由紀子先生には「子ども同士のつながりを通して子育ての中で大切にしたいこと」をテーマに、子どもの発達にそってお話をいただきました。

0歳児後半 このころの子どもは、人見知りをすることで大好きな人ができます。その大好きな人を軸に、安心できる人、場所、ものを広げていく時代です。そのため、保育者と保護者が楽しく話をする姿を見ると、子どもは安心して保育園で過ごすことができます。

1歳児頃 いいものを見つけたら、こわいものを目にしたとき、大人に指さしやまなざしを伝えます。上手と言ってくれる大人がいるから頑張れる時期です。

2歳児頃 自我が発達し、「イヤー」「ジャンでー」「○○チャンのー」と自分をたくさん出し、自分が大好きです。「わたしがいちばん素敵」と思う子どもを、大人はいっぱい褒めることが大切です。

3歳児頃 相手を大切に、相手の気持ちがあわかってきます。相手にとって素敵な私になりたいのに、うまくいかないこともあります。できなかったことに大人は寄り添い、その子が力を発揮していきけるような環境作りや、関わりをしていく必要があります。

4歳児頃 自己コントロールの力が育ち、自分の役割がわかってきます。ルールはわかるけど、人の気持ちはわからないといった子どもの場合、ルールで人の気持ちを伝える



西川先生の学習会は参加者でいっぱい

えていくなど、弱さをもっていきながら自信をもてるような関わりが大切になります。

5歳児頃 このころになると、計画を立てて行動できるようになります。自分のことだけでなく、どうしたら皆でできるのかを考える力が育ってきますが、時には気持ちがくじけてしまうこともあります。そんな子どもの姿に大人は付き合ひ、寄り添っていくことが大切です。

親業ワークショップ

◆親業に学ぶ聞き方、伝え方

講師 高橋直美さん

冒頭、高橋さんより「親の役割とは？」との問いかけがありました。親業では、親の役割は子どもを自立した大人に育てること。そのために親は子どもとどう関わり、どんな言葉を掛けたらよいか、基本となる聞き方、伝え方を教えていただきました。

「あなたメッセージ」はNG

まず、子どもの考える力をつぶす「十二の型」を体験しました。子どもからの「保育園行きたくない」に対し、「早くしなさい」「今日は行ってみたら？」

プロフィール
西川由紀子(にしかわゆきこ)先生
京都大学教育学部・同大学院教育学研究科博士後期課程取得。現在、京都華頂大学現代家政学部教授。専門は発達心理学、保育学。保育園をフィールドに、言語発達を中心に子どもの発達を研究しながら、保育士の育成をする。

高橋直美(たかはし なおみ)さん
1956年東京生まれ。子どもの不登校から親業に出会い、広めるために「親業訓練インストラクター」になる。親業ふれあいサロンや「親業」「一生懸命」読書会などを開催中。

親業訓練とは
1962年、米国の臨床心理学者トマス・ゴードン博士によって始められた、親子関係を改善し、温かく健全な家庭を築き、子どもの健全な成長を実現するためのトレーニング。カウンセリング、学習・発達心理学、教育学など行動科学の研究成果を基礎とする。

「あなた」の「あなたメッセージ」と呼ばれ、親業ではなるべく避けるように勧められています。

子どもの世界

～陽光保育園～

1歳児 — 午睡時

「足冷たい？」と聞くと、保育者の足が冷たいと思ったHくん。「おふとん あったかいよ」と自分の布団を半分、保育者に向け、しばらくして「あったかい？」と訊いてきました。「うん、あったかい。ありがとう！」とお礼を言うと、Hくんはスーッと眠ってしまいました。心温まる一場面でした。

1歳児 — 後片付け

おもちゃを片付けるときに「この箱に入れてね」と声をかけました。その箱に車のおもちゃを入れて覗きこんだTくん。全部のおもちゃを入れると山盛りになるところ、まだ箱の中には4分の1ほどしか入っていません。そんな箱を見てTくんは「ちょっとだけいっぱいだね！」

2歳児 — おやつ時間

「今日のおやつはサワー漬だよ」と保育士。ニヤニヤしながらKくんが「えっ、サワー漬け？」



緑道で思いごと

毎朝、のぞみを保育園に連れていくのは私の仕事です。10分にも満たないほんの短い時間ですが、楽しいひとときです。家を出て、ほどなく保育園脇の緑道に入ります。のぞみは、緑道わきの柵に通したロープに「ピョン」と跳び乗り、渡りはじめます。それが、このころの彼女のお気に入りなのです。この瞬間から彼女は、もうのぞみではありません。サーカス団のトップスター「レモンちゃん」になるのです。彼女は朝の日課の「綱渡りの練習」をしているのです。ロープの上をジャンプしてみたり、わざとバランスを崩してみたり（もちろん私が手を添え支えているのですが）、見る人をドキドキさせる練習にも余念がありません。

これは、最初、のぞみが、緑石の上をバランスをとりに歩きながら始まりました。それが、回を重ねるうちに、緑石がロープに変わり、「レモンちゃん」をめぐるストーリーもどんどんふくらんできました。今では「レモンちゃん」は、小鳥が乗っただけで折れてしまいそうな小枝にも乗れるようになったようです。もはや綱渡りの域をこえてしまっていますが、お構いなしです。

のぞみが作るこの「お話」は、彼女が、見たり、聞いたり、体験したことのひとつひとつが材料となつて出来上がっています。それを考えると、のぞみの成長を思わずにはいられません。

のぞみは、この緑道で、たくさんを知りました。桜が、かすかな風に散る様子が心地よいこと。ここに来れば、我が家で羽化し飛び立ったアゲハに再会できること。カラスの鳴き声にもいろいろなものがあることなど……。それらのことが、のぞみの心の中で成熟し、ますますのぞみの心を豊かにしていくことを願っています。そんなことを思いつつ、私は今日も、のぞみを保育園におくりとどけ、あたふたと駅に急ぐのです。

(北町保育園4歳児クラス・佐藤のぞみの父 佐藤俊実)



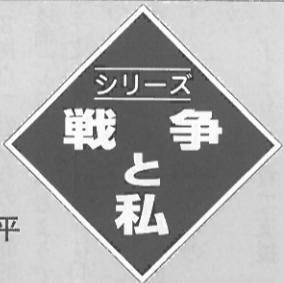
では、どんな言葉を掛けたらよいのでしょうか。親業の「能動的な聞き方」を覚えていただき、ロールプレイを行いました。具体的には①繰り返す「行きたくないんだね」、②言い換える「行くのがイヤなんだね」、③気持ちにくむ「ママと一緒にいたいんだね」等。③は必ずしも合っているとは限りませんが、子どもからは「そうなの」「ううん、ちがう」等の反応があると思います。

「わたしメッセージ」が大切

でも、小言を言いたいときもありますよね。そんなときは「わたし」を主語にした「わたしメッセージ」で伝えるとよいそうです。具体的には、「①子どもの行動を非難せず言い、②その行動による影響を、具体的に③わたしの感情で伝えます。大事なものは、続けて「だから○○しなさい」と言わないこと(「だから」はあなたメッセージ)。そして、何度も言う子どもはうるさく感

「満州引揚げ」の子として

森山康平



私は1942(昭和17)年7月、「満州国奉天市」で生まれた。今の遼寧省瀋陽市である。満州国とは1932年、中国東北地方に日本軍がでっち上げてつくった国家で、完全な植民地だったのはいままでもない。

私は敗戦時3歳。約1年後の7月末、両親と姉ふたり、妹ひとりとともに、父の実家がある鹿児島県入来町に引き揚げた。

奉天から胡蘆島まで列車に乗ったり、歩いたりして、そこから米軍提供のリバティ船に乗り、舞鶴上陸。その後は列車で鹿児島までたどり着いた。両親は大きなリュックを、長姉は1歳半の妹を背負っての逃避行である。私も小さなリュックを背負っていたようだ。

そうやって胡蘆島から乗船して帰国した日本人は105万人を超えたという。しかし、約24万人は帰国できなかった。おもに奥地の開拓団として入植した人たちである。開拓団とはいえ、ほとんどが既耕地の農民を追い払って農業を始めたのだから、8月15日を境に力関係が逆転し、迫害を受け続けたからである。加えてソ連軍兵士による(ソ連軍は8月9日、一斉に「満州国」に侵入した)攻撃や陵辱・虐殺等に見舞われたからだ。

引揚げの私の記憶は、舞鶴からの列車が混みすぎていて、窓から小便をしたという程度しかない。記録によると、途中の主要駅では地元婦人会による炊き出しが行われていたという。そのおかげで、なんとか飢えずに故郷にたどり着いたようだ。

今は廃線になっているが、川内駅(今注目の川内原発があるところ)から出ていた宮之城線で入来駅に着いた。そこから真っ暗な夜道を歩いて父の実家にたどり着いた。

敗戦後まったく音信がなく、消息がわからなかった次男坊一家が突然現れて、祖母は本当にびっくりしたようだ。同居の伯母が早速つくってくれた団子汁(いわゆる「すいとん」)が「おいしかったあ」とは、後年何回も繰り返しかえし聞かされた姉の言葉だ。

8月15日の玉音放送は、「玉砕命令」を予期し、正座して聞き入ったとは後になって父から聞いた話だ。一億玉砕のスローガンがきわめて真剣に受け止められていたことを、私はひとときも忘れたことがない。(板橋区在住)